

摂食嚥下障害学演習

[演習] 第3学年 後期 必修 1単位

《担当者名》飯泉智子

【概要】

摂食嚥下リハビリテーションの介入、評価、訓練の実際を学ぶ。

【学修目標】

摂食嚥下リハビリテーションにおける基本的な介入計画を立案する。評価、訓練を実施する。

1. 症例の問題点を整理し、優先的事項を決定する。
2. 複数の情報から、現象の背景となる機能障害仮説を立てる。
3. 摂食・嚥下リハビリテーションの介入計画を作成する。
4. 摂食・嚥下関連器官の運動および感覚の特徴を抽出し、それを適切な表現で記述する。
5. 摂食・嚥下機能検査を適切に行う。
6. 直接訓練、間接訓練の基本的治療手技を実践する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	症例に基づいた学習方法を理解する	飯泉智子
2	摂食・嚥下障害の評価	情報収集	飯泉智子
3	摂食・嚥下障害の評価	摂食・嚥下関連器官の機能検査	飯泉智子
4	摂食・嚥下障害の評価	摂食・嚥下機能検査	飯泉智子
5	摂食・嚥下障害の評価	摂食場面の観察	飯泉智子
6 }	摂食・嚥下障害の評価	嚥下造影の読影	飯泉智子
7			
8 }	摂食訓練	基本的な摂食訓練の実施	飯泉智子
11			
12 }	基礎訓練	基本的な基礎訓練の実施	飯泉智子
13			
14 }	症例検討	症例検討 グループワーク発表	飯泉智子
15			

【授業実施形態】

遠隔授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題100%

【教科書】

才藤栄一 他 監 「摂食嚥下リハビリテーション 第3版」 医歯薬出版 2016年

【参考書】

藤島一郎 監訳・著 「MASA日本語版嚥下障害アセスメント」 医歯薬出版 2014年

【備考】

演習科目は臨床的態度、評価、治療手技の習得の場であり、毎回、必ず出席することを前提としている。やむを得ず欠席する場合は、担当教員のメールアドレス宛に事前に連絡し、対応方法について指示を受けること。

摂食嚥下障害学で使用した教科書、配付資料を持参すること。

画像などの特殊教材を多用するので、受講方法に注意し、指定された物品を必ず持参すること。

担当者連絡先

飯泉智子：i-zumi@hoku-iryo-u.ac.jp

【学修の準備】

摂食嚥下障害学で使用了た教科書、配付資料などをよく復習すること。(20分)

レポート等の作成を通じて科学的文章作成能力の向上に努めること。(20分)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

(DP4)リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。